

## 海外実習報告書

神戸大学医学部 6年 永江真也

留学先 : 台北医学大学

実習期間 : 2016/9/12～2016/10/7

診療科 : 中医学、形成外科、家庭医学、放射線腫瘍科

### \*はじめに

9月から約1ヶ月間、同級生の中澤晋作さんと台湾の台北医学大学（以下、TMU）へ留学する機会をもった。台湾とは沖縄のさらに南西に位置する人口2000万人ほど、面積は35980 km<sup>2</sup>で、その大きさは日本の九州に相当する小さな島国である。しかしその人口密度は日本の2倍ほどで、亜熱帯の気候も相まってとても活気ある国だ。今回、私が台湾を留学先に選んだ理由は、①他に類を見ないほどの親日国である、②保険制度や医療技術において日本と似る点が多い、③日本から年間160万人ほどが訪れており、観光地としてもとても有名である、の三点である。百聞は一見に如かずの言葉通り、医療について、そして台湾について多くのことを経験できたのでここに記したいと思う。

### \*実習報告

1週目、私たちは中医学科で実習した。中医学では、まず脈診により全身状態を把握し、続いて漢方、鍼灸、マッサージによる治療を行う。脈診とは、文字通り脈に触れて診断をつけることを指すが、この最中医師は丁寧に問診を行う。ここで印象的だったのが、医師と患者の距離がまるで友人同士のように、非常に近かったことだ。ある日本語を話す70歳くらいの患者さんが、「もう治療を受けて10年になるけど、ずっとこの先生に診てもらっているよ。おかげさまで長生き出来て、本当に感謝している。」と仰っていた。中医学で扱う疾患は年単位の慢性の経過をたどるものが多く、医師と付き合いの長い患者が多くいる。そのため、良好な医師-患者関係を築くことがより重要になってくるのだと感じた。

2週目は形成外科で実習した。ここではちょうどTMUの学生が数名回っており、医療のことをはじめ、台湾のこと、学生生活のこと、そしておすすめのご飯屋さんに至るまで、様々なことを教えてもらった。ここで印象的だったことは、台湾ではカルテやプレゼンのスライドが基本的にすべて英語で記載されており、また教科書も英語のものを使用しているため、医師も学生も皆非常に英語に堪能であったことだ。また、単に英語ができるだけでなく、そのコミュニケーション能力の高さには目をみはるものがあった。彼らはみなフレンドリーで、相手のことに心から興味を持ち、また自分のことをしっかり表現し、お互いのことをよく知ろうとしていた。これはコミュニケーションの基本であり、かつ私自身に最も欠けてい

たことであった。このコミュニケーションの大切さに気づくことができたこと、これがこの留学一番の収穫であったかもしれない。

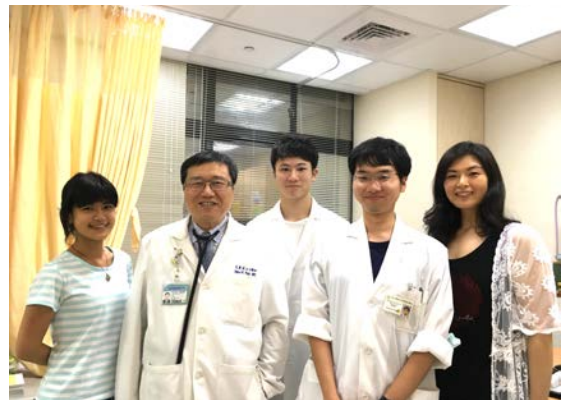
3週目、私たちは家庭医学科を回った。台湾の家庭医は、日本の総合内科医と在宅医を合わせたような役割を担っており、病院での診療に加え、来院が困難な患者のもとへ訪問診療を行っている。ここでは実際に台湾の家庭にお邪魔して、診療の様子を見学することができた。台湾では大家族の形態をとる家庭が数多くあり、患者の子供、孫が医療においても重要な役割を担っている。医師は患者だけでなくその家族とも良好な関係を築いており、そのことが患者の QOL 向上にもつながっているように感じられた。また、この科で私たちは Yu-Shan というシニアレジデント 1 年目の医師と出会った。彼女は、日本から来た私たちのことに非常に興味を抱いてくれ、実習中医学のことはもちろん、私たち自身のことについても多くの質問を投げかけてきた。Yu-Shan はここで、自分自身を表現することの大切さを教えてくれた。

4週目は放射線腫瘍科で、主にターミナルケアについて学んだ。病棟で実際に患者さんやその家族の意思を聞いた後、今後患者さんをどうサポートしていくかについて、先生とディスカッションする機会があった。終末期をどう過ごすかは患者一人一人によって異なり、正しい答えはない。その答えのない問いについて、患者の立場に立って考え、自分なりの考えを相手に伝えること、この大切さを学んだ1週間であった。

以上4週間の実習を通して、中医学や家庭医学など台湾独自の医療を実際に目にすることで多くの新たな発見があった。また一方で、一般的な患者さんとの接し方や医師としての考え方は日本の医療と通じるところがあると分かり、その重要性についても再認識することができた。



Traditional Chinese Medicine の  
Chen 教授と



Family medicine の先生方と  
(左から Dr. FangJo-I, Dr. FanHao-Yi,  
私, 晋作, Dr. Yu-Shan)

### \* 普段の生活

異国を訪れた際、その土地に住む人々と触れ合い、独自の食べ物を味わい、そして観光地を訪れることは、その国を知るために重要なことである。今回の滞在中、多くの台湾で出会った人が私たちを様々な場所へ連れて行ってくれ、素晴らしい経験をさせてくれた。言葉だけでは語りきることのできないこの経験を、写真を交えて紹介したいと思う。

### 観光地

台湾は人気観光地の一つであり、台北 101、九份、故宮博物院、夜市、台南など訪れるべきスポットが数多く存在する。中でも夜市は日本人には珍しく、人や店の多さ、日本の真夏のような気候も相まってとても活気があった。



寧夏夜市



士林夜市

### 食べ物

台湾には日本では中々口にするのできない美味しい食べ物が無数に存在する。中でも甘辛い豚バラ肉をご飯の上ののせて食べる魯肉飯が私たちの一番のお気に入り、学食に行った際には毎回食べていた。



YuShan オススメの小籠包



日本でも人気のアイスモンスター





TMU の学食（魯肉飯）



台湾の辛い料理（川妹子）

### 台湾の人々

台湾には親日の人が多いと以前より聞いていたが、1ヶ月の滞在で台湾人の日本人に対する優しさを身にしみて感じた。彼らは純粋に日本のことに興味を持ってくれ、そしてまた台湾の良さをたくさん教えてくれた。こうした台湾の人々との交流がこの滞在一番の楽しみであった。



蝦釣り

(左から晋作, 私, Kun-Lin, Jessica, Eva)



6年生と

(左から George, Mao, 私, 晋作, Hiro, Gerry)



最終日ロッカールームにて

(左から Gerry, Leslie, Doro, Mao、後ろ私, 晋作)



Kun-Lin とその友人

(左から私, Angel, Sherry, Kun-Lin)



象山にて（左から晋作,私,Eva,Sharon,Keat）



李くんと台北101前にて

\*終わりに

台湾から帰国し早3週間、実習や勉強など日本での日常に戻りつつある毎日においてなお、未だに台湾での記憶は強く心の中に残っている。今回見たこと、感じたことを心に留めつつ、残り少ない学生生活とその後の医師としての日々をより充実したものにしていきたい。最後にこの貴重な機会を与えてくださった国際交流係及び教務課の方々、留学を支援してくれた父母、一緒に4週間を過ごしてくれた晋作、そして滞在中出会った全ての心優しい台湾人に感謝の言葉を述べたい。